

歳出の1位は民生費

歳出を目的別にみると福祉関係の費用である民生費が全体の4分の1（25.7%）を占めています。少子高齢社会にあっては今後も増加していく見込みです。

2位は総務費（18.9%）、3位は衛生費（12.3%）となっており、上位3位までで全体の半分以上（56.9%）を占めています。次いで公債費、土木費、教育費の順になっています。

1位 民生費

私立保育所措置費、児童手当給付費
障がい者自立支援給付事業
生活保護費、介護保険事業負担金
老人福祉センター整備 など

2位 総務費

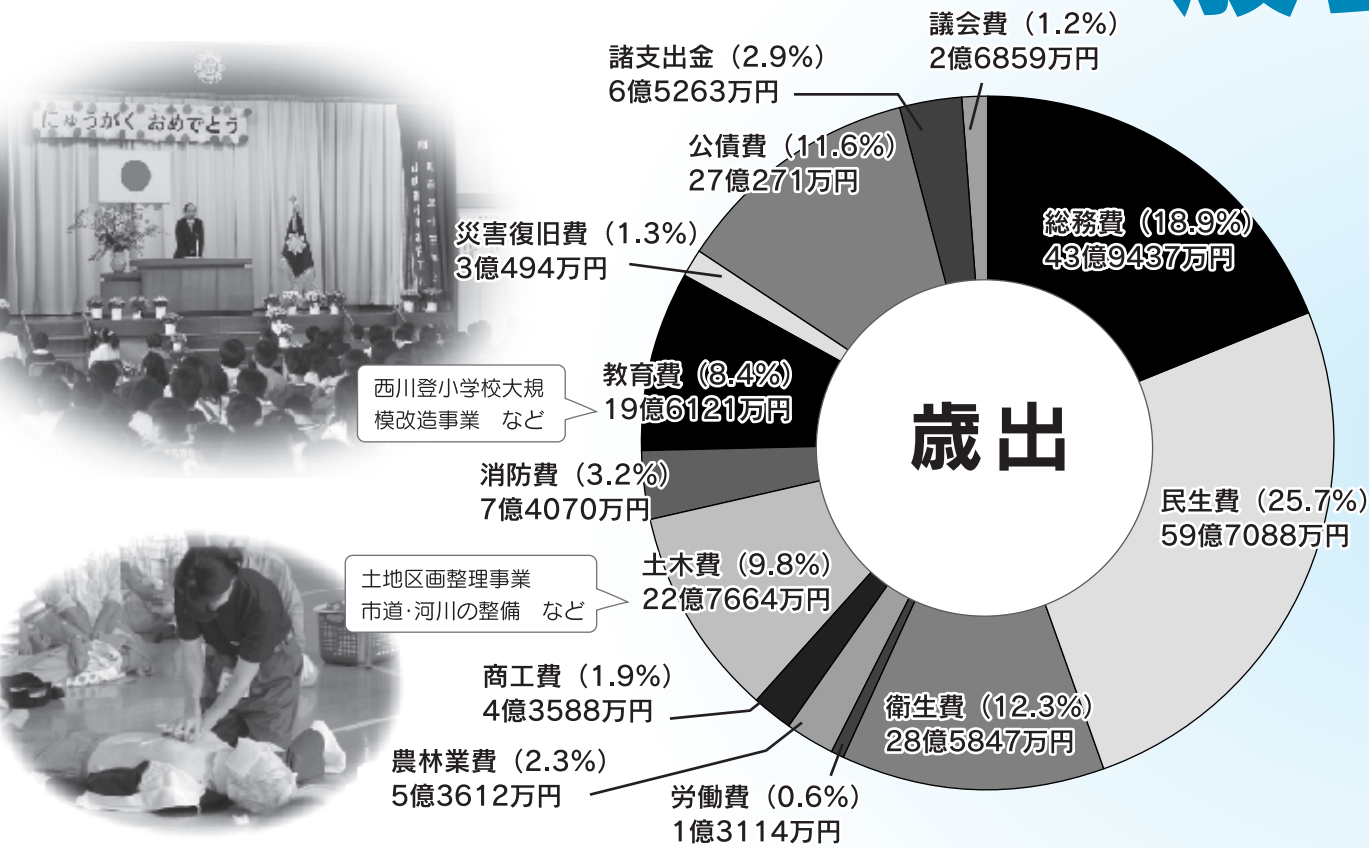
戸籍、庁舎管理
定額給付金事業
財政調整基金積立 など

3位 衛生費

各種予防接種・健診経費
ごみ・し尿処理経費
病院事業会計の清算経費 など

一般会計決算

歳入から歳出を差し引くと
9億9350万円の黒字となっています



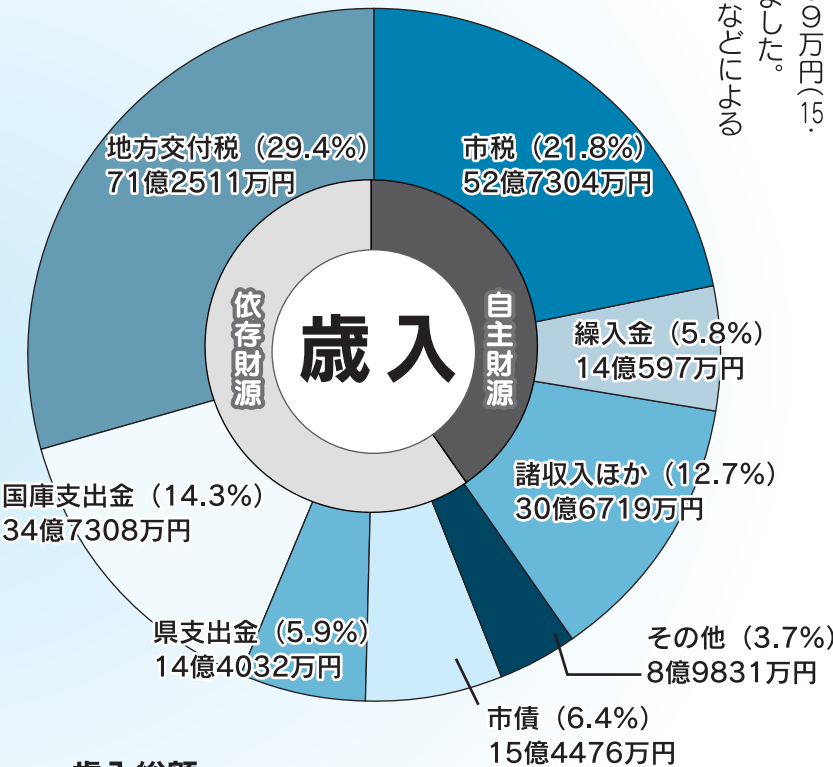
歳出総額
232億3428万円

特別会計決算

会計区分	歳入	歳出	差引
国民健康保険	58億3828万円	59億1208万円	△7380万円
老人保健	561万円	529万円	32万円
後期高齢者医療	5億1937万円	5億1900万円	37万円
農業集落排水事業	6億7878万円	6億7028万円	850万円
公共下水道事業	2億6990万円	2億6509万円	481万円
戸別浄化槽事業	1億5054万円	1億4747万円	307万円
土地区画整理事業	8億1577万円	8億848万円	729万円
競輪事業	128億976万円	126億77万円	2億899万円
給湯事業	2095万円	1704万円	391万円
新工業団地整備事業	3億6098万円	3億6089万円	9万円
交通災害共済	0.1万円	0.1万円	0円

※交通災害共済特別会計は、平成22年4月1日より廃止。

※国民健康保険特別会計は、△7380万円の赤字となっていますが、平成22年度の予算によって対応しています。運営状況は、大変厳しいものになっています。



歳入総額
242億2778万円

歳入

◆一般会計歳入総額は242億2778万円となり、前年度と比べて35億6308万円（17.2%）の増となりました。

◆地方交付税の増加
国の経済対策などによる国や県の補助金の増加
市が独自に確保できる自主財源は、前年度と比べて16億9680万円（21.1%）増加していますが、これは財源不足を補うための基金繰入金等の増加によるものです。また自主財源となる皆さんや企業からの税金（市税）は、景気後退などの影響により2億4806万円（4.5%）の減となりました。

歳出

◆一般会計歳出総額は232億3428万円となり、前年度から31億9369万円（15.9%）の増となりました。

◆定額給付金事業などによる総務費の増加

◆国の経済対策による土木費等の増加
7月の豪雨災害などによる災害復旧費の増加
などが主な要因です。

平成21年度決算報告

将来を見据えた健全な財政を目指して更なる
財源の確保と歳出の抑制・適正化に努めます。

平成21年度の武雄市の決算概要
をお知らせします。決算は、議
会で審査が行われます。

一般会計…市民の皆さんからの税金などを財源として市の基本的な行政運営を行う会計。

自主財源…市が独自に徴収することができるお金。
市民税、固定資産税、使用料、手数料など

依存財源…国や県などから入ってくるお金。
国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲
与税、自動車取得税交付金、市債など

